

第 41 回土木計画学研究発表会（春大会）：2010.6.5～6（名古屋工業大学）
企画セッション討議内容の記録

セッション名：土地利用マイクロシミュレーションセッション	
日付：6月 6日（日）曜日，セッション時間： 16：45～18：45	
オーガナイザー名（所属）：鈴木 温（名城大学）	
討議内容	<p>セッション全体</p> <p>マイクロシミュレーション型の土地利用モデルに関する7編の発表がなされた。シミュレーションの対象は、世帯の立地選択、住宅市場、商業立地選択、企業のオフィス立地の選択等、多岐に及ぶ発表が行われた。その中で、初期データの作成や評価、選択肢の設定や絞り込み、データの入手可能性、モデル化した主体行動の妥当性等、多くの課題が議論された。個別の発表内容と質疑の内容は後述するが、全体質疑では、マイクロシミュレーションの初期データの定義や世帯や企業の立地選択におけるモデル化の考慮条件等に関する議論が行われた。最後に、オーガナイザーから土地利用マイクロシミュレーション研究における今後の課題と期待が示された。</p>

<p>(発表番号) 310 発表者名 (所属) : 杉木直((株)ドーコン)</p> <p>マイクロシミュレーションの初期世帯データに関し、世帯属性に居住ゾーン、住宅タイプを加えた属性を考慮したゾーン別世帯人口の推定方法が提案された。提案手法の利点、既存研究と結果に大きな差が見られなかった理由等について質疑がなされた。</p>
<p>(発表番号) 311 発表者名 (所属) : 大谷紀子(東京都市大学環境情報学部)</p> <p>世帯の居住ゾーンと住宅タイプを属性として加えたマイクロデータの適合度評価方法の提案がなされた。観測データの定義やデータの作成方法に関する質疑がなされた。</p>
<p>(発表番号) 312 発表者名 (所属) : Ang LI(公益財団法人 豊田都市交通研究所)</p> <p>京都を対象とした立地選択モデルの推定結果が示された。選択肢や説明変数の組み合わせの数が多すぎるのではないかという意見や、重要な変数をどのように絞り込んでいるかという質疑がなされた。</p>
<p>(発表番号) 313 発表者名 (所属) : 北詰恵一(関西大学)</p> <p>マイクロシミュレーションの多選択肢問題に対し、認知心理学や住宅選択に関するアンケート調査の結果から空間区分のモデル化を行い、シミュレーション結果が示された。質疑では、選択肢集合の認知メカニズムからモデル化する必要があるのではないかという意見等が出された。</p>
<p>(発表番号) 314 発表者名 (所属) : 鈴木温(名城大学)</p> <p>マイクロシミュレーション型の土地利用モデルに対し、住宅と世帯のマッチングという概念に着目した住宅市場のモデル化とモデルの推定結果が示された。質疑では、同一世帯タイプ内の住宅選好に関する多様性(ランダム項)の扱い等に関する意見交換がなされた。</p>
<p>(発表番号) 315 発表者名 (所属) : 西岡直樹(名古屋大学)</p> <p>小売店の行き過ぎた郊外展開と退転跡地の発生防止を目的として、出退店ダイナミズムを組み込んだ大規模商業施設立地モデルを用いた分析結果が示された。質疑では、一つの企業が複数の店舗立地を展開する場合の扱いや立地可能な土地の有無がモデルに与える影響等が議論された。</p>
<p>(発表番号) 316 発表者名 (所属) : 黒澤佳代(北海道大学)</p> <p>企業の立地選択行動をモデル化したシミュレーション結果が示された。設定パラメータの現実性やオフィス立地に関するデータの取得可能性に関する質疑がなされた。</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属) :</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属) :</p>